

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	RPPA を用いた肺がん組織のオーム解析
	研究目的	バンダービルト大学・Quaranta 教授らが見出した小細胞肺がんの薬剤抵抗性に関わる分子、シグナル経路の妥当性を生体試料センターで採集した同がん組織を用いて検討する。
	研究対象者	2001 年～2020 年に当センターで未治療、治療後の小細胞肺がん組織の提供を受けた患者さん 50 名
	研究期間	西 暦 2020 年 4 月 1 日 ～ 西 暦 2023 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物 (尿・便) <input type="checkbox"/> その他 (記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	臨床研究所 臨床がんプロテオミクスラボラトリー 招聘研究員 越川直彦
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	臨床研究所、呼吸器科外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	東京工業大学生命理工学院 健康医療科学分野 教授 越川直彦 米国 Vanderbilt University Quantitative Systems Biology Center, Professor Vito Quaranta, MD